

校長室から

(R元年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 12

令和元年5月31日(金)発行

8日の土曜参観、お待ちしております

学校だよりでもお知らせしています。お休みの日に恐縮ですが、是非、学校にお越しください。(子どもたちは、10日(月)が代休となります。)

そしてできれば、次の3点をご参考にさせていただきたいと思います。

まず、1点目は、お子さんの様子をご覧いただき、これまでと違う成長の証を見つけて、それを認める言葉をお子さんにかけてあげてください。その言葉でお子さまの自己肯定感がどんどん高まっていきます。次の日の学校での様子に変化が出てきます。やる気が出てくるのです。子どもたちの学びで大切なのは、自己肯定が高まってくることです。自己肯定が高まると自分が好きになり、自分で何でもチャレンジしてみようと主体的な姿が見られるようになります。身の周りも見えてきて友だち関係も良くなってきます。よりよい自分にどんどん変わっていきます。褒めることで子どもが生き生きしてきます。

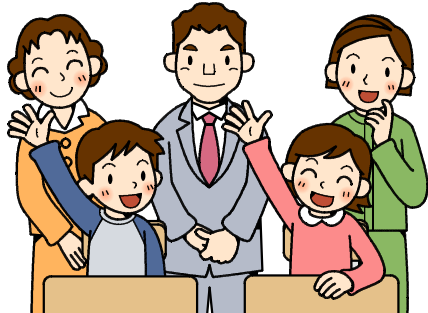
2点目は、みなさんのお子さん以外の子どもたちにも目を向けていただきたいと思います。そのなかで、良い点や感心したことがありましたら、その子どもにもみなさんの素直な気持ちを言葉にして伝えてください。きっと伝えられた子どもも、そして伝えたみなさんも笑顔になるとと思います。

3点目は、子どもたちだけでなく、教職員の様子や校内の掲示物等の状況、施設や環境などもご覧いただき、ご意見をいただけたらと思います。現在は連携の時代です。学校は、保護者のみなさんをはじめ、様々な方々と子どもたちの健やかな成長という共通の目的をもって連携してこそ、優れた教育ができるのだと思っていますのでよろしくお願いします。お気づきの点は、いつでも結構ですので、学校にご意見をお届けください。

なお、この日は、地域の方々にも学校にお越しいただけるようご案内して

います。子どもたちが、多くの人たちに見守られながら成長しているということを実感するとともに、いつも子どもたちを温かく見守っていただいている地域の方々への感謝を、子どもたちの姿からお伝えできればと思っています。

多くのみなさまの参観をお待ちしています。引渡し訓練もよろしくお願いします。



被災の教訓 児童訴え



非常用持ち出し袋について説明する
美安君(左)と吉田さん(茨木市で)

茨木で研修会

学校現場や地域の防災をテーマにした防災研修会が茨木市の市立東奈良小学校であり、災害を体験した小学生や学校防災・地域防災の専門家の話に約130人が聞き入った。

昨年6月の大阪北部地震に遭った茨木市の小学6年美安拓大君(11)は、自宅の部屋で揺れを感じ、机の下に隠れた直後に本棚が倒れたことを説明。「何秒か遅れていたら、大けがをしていた」と語り、地震に備えて家具を固定しておく必要性をアピールした。

家具固定を ■ 家に備蓄 重要

同年9月の台風21号に見舞われた東佐野市の小学5年松岡俊介君(11)は、被災地で救援物資が行き渡らない人がいたと振り返り、各家庭での備蓄の重要性を訴えた。

講師を務めた仙台市の防災減災アドバイザー吉田亮一さん(61)は、東日本大震災の被災地で小学生や中学生が避難所の運営に参画し、救援物資の集積や清掃などにあたったことを紹介。避難所に昼間いるのはお年寄りや子どもが中心と説明して、「子どもたちが、いろいろなことを担わなければならない」と語りかけた。

土曜参観後の引渡し訓練も被災訓練です。1年前の大阪北部地震でも、それまで訓練していたからうまくいきました。10/25(金)に吉田さんにお越しいただき、地区防災会のご協力で4~6年生の防災教室を計画しています。